

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かけ		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	令和2年1月21日	評価結果市町村受理日	令和2年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和2年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。当たり前の事ですが、木かけに入居して本当に良かったと思って頂けるホームを目指しています。地域に木かけを積極的にアピールするようにしています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「笑う門には福来る」を掲げ、笑いが健康長寿につながることを意識しながら、実践に繋げている。一人ひとりの生活歴を基に、利用者の今の思いや意向を知り、その人らしい暮らしの支援に努めている。利用者の日常を家族に伝える「ワッハッハ」通信に添えて、担当者の手紙と管理者の手紙を利用者家族に郵送して喜ばれている。地域のボランティア、中学生の体験学習の受け入れなどの他、管理者が地域で研修講師をするなど地域との関わりを深めている。住み慣れた所で最後を迎えられるようにと看取りをおこない、他の利用者と共に最後まで一緒に過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理室の目の付く場所に「笑う門には福来る」の理念を張り出し、管理者と職員は理念を共有し、実践している。	認知症になっても、地域の中で楽しく過ごせるように考えた「笑う門には福来る」というホームの理念を職員間で共有し、日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高校のボランティア部や、中学生の職場体験の受け入れを継続的に行っている。民生員さんのご紹介やあんしんケアセンター・社協からの経由で、様々なボランティアさんにて外部とのかかわりが持っている。	自治会に加入しており、地域の行事や会合に参加している。地域のボランティア、高校生ボランティア、中学生の職場体験は継続的に受け入れている。日常的に民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センターとの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験やボランティアさんに「認知症とは」の説明をしている。入居見学の方に認知症の方とのかかわり方について、経験上のアドバイスを管理者がしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	木かげからの総合的な報告の後に、運営推進会議参加者よりご頂いた情報などを職員に掲示している。	運営推進会議は3か月に1回、利用者家族、地域住民、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員の参加で開催している。ホームの現状の報告を行い、参加者の意見を聞いて運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員からの意見・疑問点などを踏まえ、確認事項がある場合、管理者が行っている。	市の担当課には、何かあれば相談している。また、地域包括支援センターが運営推進会議に出席しており、日頃から連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者および職員は、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束について勉強会を行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成しており、運営推進会議の中で「身体拘束廃止権利擁護委員会」を開催している。拘束や虐待についての勉強会も開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で「イライラや気持ちの余裕のなさを感じる時は、どんな時なのか」管理者や職員で話し合い、虐待に発展してしまわないよう勉強会を行っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、何名かの入居者さんが利用しているので、活用できていると思う。日常生活自立支援事業については、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っているのですが、契約に関して職員は直接かかわっていないが、契約書を交わす前に、ご家族様と話し合いの場を設け、納得・安心して頂いた場合のみ契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に家族要望聞いている。定期的に行う社長・事務員・管理者(2名)での会議にて社長に伝え、運営に反映できるようにしている。運営推進会議にて報告している。	家族の来訪時に聞き取った意見や、運営推進会議での意見を法人に報告して反映に努めている。大型の空気清浄機設置は、家族の意見を反映したものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見ではないが、業務改善などに関しては、職員から意見や提案があった場合、職員から管理者・管理者から社長へと報告し、反映に役立っている。	職員会議や定期的な面談において、職員の意見を聞いている。出された意見は法人に伝え、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の職員の状況を管理者は把握してくれていて、職員が働きやすくなるよう、管理者は環境を整えるために、いろいろと考え、やりがいに繋がるように、環境づくりに努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は一人一人に合った指導をしている。コミュニケーションを苦手としている者もいるが、外部の研修に参加する機会(意欲)が少なく、コミュニケーション能力を育てることが難しい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていないが、機会があつたら、相互訪問等をしてみたい。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の際、ご本人の困っているであろうことをご家族に聞いている。ご本人との会話の中からも、不安や困っていることなどを導き出し、ゆっくり時間をかけ、安心や信頼を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族の要望や、不安と感じていることを聞いている。入居後もその都度、ご家族が不安に思うことなどを伺い、ご返答をし信頼関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご家族より情報をいただき、ご入居前にケース会議を開き、「その時に」見合った支援ができるよう努めている。必要性があれば他のサービスも視野に入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをお願いしている。レベルに合わせて、出来そうなことをお願いしている。掃除や洗濯などスタッフと一緒にいき、その後のくつろぎ時間に会話を楽しみながら、一緒にお茶を飲んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご様子を伝え、ご家族の要望を伺い方向性を決めている。室内イベントや外出イベントに、ご家族に参加していただき共に楽しんで頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のなじみの場所や友人のお話を聞き(ご家族にも伺う)電話をしてもらい、なじみの関係が途切れないよう努めている。ご面会時は、お友達とゆっくり出来るよう支援している	家族や友人との関係性が途切れないように、電話の取次ぎ、お墓参り、外泊などが実現できるように支援している。友人などが訪ねて来た時には、ゆっくり話が出来るように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士でトランプ・花札などを楽しまれている。職員が間に入り入居者さん同士の会話の懸け橋となっている。一人になつてしまわないように職員がそばに座らせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの支援は必要としていないが、何かのご家族は、定期的に顔を見せに来てくださる。災害時など、木かげを気にしてくださり、支援していただくこともできた。良好な関係は保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、ご本人の暮らしへの希望や、今の気持ちなどを伺い把握に努めている。ご自身の気持ちを言葉することが難しい方の場合は、居心地のよさそうな空間・時間を大切にしている	日常的に普段の会話で思いの把握に努めている。難しい場合には、家族から情報をもったり、利用者の様子から察して職員間で話し合うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から入居前に生活歴や、日常の過ごし方などの情報を伺い、職員間で共有している。また、会話の中からご本人の馴染みのものや、暮らし方を導き出せるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や心身状況の把握はできていると思う。有する力に関しては、まだまだ把握しきれていない。色々なことをお願いする前に、スタッフがやってしまっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望をもとに、ご本人が自分らしく暮らしていけるための「今の課題とケアのあり方」について、職員間で話し合いを設け、それぞれの意見を参考に介護計画を立てている。	利用者本人や家族の意向を踏まえ、職員や主治医の意見を参考にして介護計画を作成している。ケース会議をおこなう際は、家族にも声をかけて参加を促している。モニタリングは担当職員がおこない、定期的に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に変化や気づきは色別で記入し、職員が共有している。特に注意すべき点は、個人ファイルの最後のページに申し送り事項として記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いや、ご家族の思いにできるだけ対応できるようにしている。その時その時で状況が変わるので、職員間で話し合い情報の共有をし支援方法を変え支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は難しい。ボランティアさんは、定期的に来てくれる。外出イベントなどに同行していただくこともある。俳句ボラさんの日は、個々の力を発揮し、俳句講座を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用している。ご本人・ご家族のご要望を訪問診療時に職員が伝えている。電話での相談もでき、体調不良時などには簡単な指示も頂けるので、適宜対応することができている。	ホームの協力医が月2回の往診で利用者の健康管理をしている。緊急時も含めて24時間365日対応の連携ができている。協力医以外の専門医受診は、家族とホームが連携しながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護利用時は、情報共有ができている。木かげの看護師には適宜相談している。月二回の定期訪問診療時には職員と共に看護師がドクターに情報提供をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居さんが安心して入院生活ができるよう、入院時には、病院に地域連携シートやアセスメントシートなどの提供を速やかに行っている。病院の地域連携室とのやり取りを管理者が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者による入居前の説明にて、終末期の在り方について話し合いを行っている。	重度化した場合の指針は、分かりやすい言葉で、家族の気持ちに配慮しながら文書化している。ホームとして最後までサポートしていくという姿勢を伝えており、家族や利用者の安心につながると思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についての勉強会を行っているが、完全に身につけているわけではない。入居さんの様々な状態に合わせてその都度、管理者や看護師から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の訓練は定期的に行っている。近隣の方の参加は少ないが、普段参加して下さっているボランティアさんに、も参加していただいている。	避難訓練は、火災や地震を想定し年2回実施している。家族や地域ボランティアとの協力体制ができおり、昨年台風や豪雨時には家族が発電機等を持参してくれた。発電機はホームだけではなく、地域住民の携帯電話充電にも利用した。また、その経験から、非常用の備蓄を見直した。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時や入浴時の配慮が、まだまだ足りていないように思う。一人一人に合わせた声掛けや言葉の使い分け(安心につながるような)はできている。敬う心をもって接しているつもりでいる。	管理者は「されて嫌な事はしない、させない」「説明と同意」など介護に対する考え方を職員に伝えている。ホームの便りでの写真掲載については、契約時に同意を得ている。	さらなるサービスの質の向上を目指して、外部研修等も含め、職員に学ぶ機会を提供することも期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話にて思いを聞き出すようにしている。好きなこと嫌いなこと行きたい場所など。自己決定が難しくなっている方には、職員が読み取り、答えに近づけるようそれとなく誘導してしまっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんを第一に考え、職員の考えを押し付けないようにしている。お部屋で過ごす・ソファでテレビを見る等、なるべくその方の希望に沿った一日になるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時などに、ご本人に洋服を選んでもらう。髪形やお化粧等は、ご本人の好みでして頂いている。意思決定が難しい方には、職員が選んでおしゃれしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握している。魚が苦手な方には、卵料理に変更するなど、出来る限りの支援をしている。野菜の皮むきや盛り付け等を職員と共にしていただいている。	献立や食材は専門業者に依頼しているが、利用者の食が進まない時は好きなものを用意することもある。また、個別またはユニットで外食にも出かけている。おやつは、利用者の食べたい物や季節の果物を取り入れながら、職員と一緒に食の楽しみを共有することを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、職員は把握に努めている。ミキサー食の方には「何を召し上がっていただくか」の内容を説明し介助している。ミキサー食の味付けは、一味を加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前には歯磨きをしていただけるよう、歯磨きセットの準備と共に声掛けをし、実施していただいている。ご自分でできない方には、職員がさせていただいている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的な声掛けやトイレ誘導を行っている。排せつ時間のパターンを話し合い「トイレで間に合う排せつ」にすることで、紙パンツから布パンツへの移行支援もしている。	排泄チェック表の記録を確認し、間隔があれば看護師に相談したり、下腹部マッサージや軽い運動、腹部を温める等、自然な排泄につなげるように対応している。ケース会議で支援方法等を話し合いながら、一人ひとりの状態に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因と考えられる「冷え」を防ぐために、レッグウォーマーやひざ掛けを利用している。食事と一緒にオリゴ糖をとっていただいている。慢性的な便秘の方は処方薬を内服している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は大体決まっている。ご本人の希望時間に入浴できるようにしている。職員都合では実施しない。入浴希望者がいない場合は、日にちが開いてる方を優先し声掛けをしている。	入浴時間は利用者の希望に合わせており、週2回から3回を目安に声かけしている。身体状況によっては二人介助での入浴や、同性介助の希望にも応じるように努めている。シャンプー類は個別に用意し、入浴剤も使用するなど、入浴がより楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は自由。体調不良や眠そうな方には、その時の状況に応じて居室やソファで休んで頂く。日課の体操や歌などで活動的に過ごしていただき良い睡眠に結び付けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに閉じてあり、薬の内容や使用目的などを理解している。処方内容に変化があった場合など、薬剤師に説明を受け申し送りの徹底をし、職員間で理解共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事・得意な事を、喜びをもってお手伝いをして頂けるよう支援している。嗜好品は、個別に支援している。職員からの押し付けることはなく、好きなことを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から、行きたい場所・食べたいものを伺い、外出・外出の企画を立て、参加して頂いている。時間の都合の付きやすいご家族には、外出イベントに参加して頂いている。馴染みのボランティアさんにも同行してもらえらる。	利用者の希望で外食やみかん狩り、道の駅やショッピングセンターなどに出かけている。長時間の外出が難しい利用者は、近場にドライブしている。日常的に、広い中庭で日向ぼっこしてお茶を飲むなど、季節を感じながら外気に触れるよう工夫している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お金を持ち込んでいただいているが、数名の方はご家族の希望(無くなっても仕方ない)により所持していただいている。職員は定期的に中身の確認をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をしていただいている。ほとんどの方は、職員がダイヤルをし、お話している。手紙の返信は、金銭的な問題や書くことの難しさから出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、皆さんで選んだカレンダーの写真や作品などを貼っている。日中はカーテンを開け、中庭の小鳥や花を見て季節を感じてもらえるようにしている。室温度に気を付けている。なるべく不快な音を立てないようにしている。	中庭に面した明るく開放的なリビングは、車イス対応の利用者もイスやソファに移り、それぞれの居場所で編み物したり、テレビを見るなど思い思いに過ごしている。空気清浄機を設置するなど、環境にも配慮して居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんご本人の過ごしたい場所で、過ごしたい方と過ごしていただいている。静かな雰囲気好きな方の中にはいるので、そんなときは、職員は、さりげなく隣で過ごさせていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを持って来て頂いている。ご家族の写真や趣味の道具なども持ち込んで頂いている。訪室した際に、その物についてお話を伺ったりしている。	入居の際、家族に使い慣れた物や馴染みの物を持ってきてもらうよう話している。家具の他、書道道具や編み物の毛糸、足踏みマシン、写真、時計等が持ち込まれ、それぞれの居場所となっていることがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の掃除や整理整頓を職員と一緒にしている。入り口には表札があり、居室が分かるようにしている。不安な方には同行したり「左側の何番目ですよ」と声掛けをし見守りの徹底をしている。		

【評価機関】